

# 授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 心理学		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )			
授業担当者 海津 庄平		実務経験	精神科の病院に10年ほど勤務。臨床心理士として主にカウンセリング・心理検査を実施		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年・前期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>心理学の基本知識(認知・記憶・学習)について学習する。また、その基本知識の定着とともに、日常生活における心理学の応用部分にも触れる。</p> <p>人間の行動の欲求と動機づけがどのように心理学的に研究されてきているかについて学習する。さらに各自の性格や感受の発達の成長についても学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>内容の講義に加えて、内容の確認ができるように確認テストを実施する。また授業内容に合わせてグループワークを実施し、学生それぞれが言葉を覚えるだけでなく体験的に知識を習得できるように進めていく</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学の基礎理論(認知・記憶・学習)の知識を深める。</li> <li>・心理学における発達の要因の知識を深める。</li> <li>・グループワークなどの体験を通して、日常生活において心理学がどのように活かせるかについて考えることができる</li> </ul> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、心理学とは</li> <li>2. 感覚・知覚・認知</li> <li>3. 学習と記憶</li> <li>4. 学習と記憶(2)</li> <li>5. 知能</li> <li>6. 人間環境と集団</li> <li>7. 対人交流とコミュニケーション</li> </ol> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 発達の概念</li> <li>9. 発達の概念(2)</li> <li>10. 適応とストレス</li> <li>11. 性格</li> <li>12. 感情 13. 欲求と動機づけ</li> <li>14. 葛藤と欲求不満</li> <li>15. 心理療法</li> </ol> </td> </tr> </table>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、心理学とは</li> <li>2. 感覚・知覚・認知</li> <li>3. 学習と記憶</li> <li>4. 学習と記憶(2)</li> <li>5. 知能</li> <li>6. 人間環境と集団</li> <li>7. 対人交流とコミュニケーション</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 発達の概念</li> <li>9. 発達の概念(2)</li> <li>10. 適応とストレス</li> <li>11. 性格</li> <li>12. 感情 13. 欲求と動機づけ</li> <li>14. 葛藤と欲求不満</li> <li>15. 心理療法</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、心理学とは</li> <li>2. 感覚・知覚・認知</li> <li>3. 学習と記憶</li> <li>4. 学習と記憶(2)</li> <li>5. 知能</li> <li>6. 人間環境と集団</li> <li>7. 対人交流とコミュニケーション</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>8. 発達の概念</li> <li>9. 発達の概念(2)</li> <li>10. 適応とストレス</li> <li>11. 性格</li> <li>12. 感情 13. 欲求と動機づけ</li> <li>14. 葛藤と欲求不満</li> <li>15. 心理療法</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献]		・「心理学理論と心理的支援」 社会福祉士養成講座編集委員会、中央法規			
[単位認定の方法及び基準]		<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 考查点(90%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</li> <li>2. 平常点(10%) ・授業での発言や参加態度を評価する。</li> </ol>			

# 授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 コミュニケーション実践 I		授業の種類 ( 講義 ・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">演習</span> ・ 実習 )	
授業担当者 高橋 洋美		実務経験 高齢者施設にて生活相談員 3 年、歯科衛生士 3 年	
授業の回数 16 回	時間数 (単位数) 30 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] ・ 自己覚知と聴くことの大切さを知りコミュニケーションを図ることができる。 ・ 基本的なビジネスマナーを身に付ける。 [授業全体の内容の概要] ・ グループワークで自己覚知を学ぶ。 ・ 社会人としての知識の習得を深め、時間内のテストで理解度を確認する。 [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・ ビジネスマナーが身についた言動ができる。 ・ 自分を理解した上で相手の気持ちを受けとめた関わりができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. コミュニケーションとは何かを知る 2. 自分を知る 3. 自分の世界を広げる 4. 相手を理解する 5. 聴く技術を知る 6. 心理学を活かしたコミュニケーションを学ぶ 7. 適切なコミュニケーションを図ることができる 8. 働く意識を持つ		9. プロ意識を高める 10. 仕事中の態度とマナーを学ぶ 11. 職場での基本ルールとマナーを学ぶ 12. 指示の受け方と報告・連絡・相談 13. 介護施設・福祉施設のマナー 14. 在宅のマナーを理解する 15. 挨拶と身だしなみの基本がわかる 16. 期末考査	
[使用テキスト・参考文献]		介護福祉スタッフマナー基本テキスト 日本能率協会マネジメント協会	
[単位認定の方法及び基準]		・ 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 1. 考査点(90%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。 2. 平常点(10%) ・ 提出課題において、到達目標の 6 割以上に達している点を評価する (10%)。	

# 授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 一般教養		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 森 久	実務経験	なし	
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい] 一般教養を (国語・社会・数学・理科) を就職試験で必要とされるレベルまで到達するよう学習する</p> <p>[授業全体の内容の概要] 基礎から応用まで繰り返し学ぶ。内容の確認ができるように確認テストを実施する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語・社会・数学・理科の応用問題が解ける。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 国語 2. 数学 3. 理科 4. 社会 5. 国語 6. 数学 7. 理科		8. 社会 9. 国語 10. 数学 11. 理科 12. 社会 13. 国語 14. 数学 15. 理科	
[使用テキスト・参考文献]			
[単位認定の方法及び基準]		<p>・ 教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 考查点(90%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。</p> <p>2. 平常点(10%) ・ 授業での発言や参加態度を評価する。</p>	

# 授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目 公的扶助論		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 名地 宙	実務経験		
授業の回数 16回	時間数 (単位数) 32時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 公的扶助の理論の概要を把握する</li> <li>2 国家試験に合格するための基礎学力を身に付ける</li> </ol> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>担当科目の内容を理解できるよう要点を絞ったプリントを使い解説し、基礎的な内容を把握できるよう確認試験を解答させる</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 過去問題が解けるようになる</li> <li>2 確認試験で知識を確実に身に付ける</li> <li>3 生活保護制度の現状についてのビデオを鑑賞する</li> </ol>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15回までの場合はセル結合)			
1. [1. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅰ]	8. [2. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅲ]		
2. [1. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅱ]	9. [2. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅳ]		
3. [1. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅲ]	10. [2. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅴ]		
4. [1. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要の実際Ⅳ]	11. [2. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅵ]		
5. [2. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅰ]	12. [2. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅶ]		
6. ビデオ視聴学習 (2本) 視聴後、感想を書かせる	13. [2. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅷ]		
7. [2. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅱ]	14. [2. 生活保護制度 生活保護法の概要Ⅸ]		
	15. プレテスト		
	16. 期末試験		
[使用テキスト・参考文献]	弘文堂 社会福祉士シリーズ 低所得者に対する支援と生活保護制度[第2版]		
[単位認定の方法及び基準]	<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した配布プリント(授業補助プリント及び確認テスト)を編集した期末考查により算出する。</li> <li>2. 平常点(15%) <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度を点数化したもの(5%)。</li> <li>・確認試験が、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li> </ul> </li> </ol>		

# 授 業 概 要

(社会福祉科)

授業のタイトル (科目名) 介護職員初任者研修 I		授業の種類 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">講義</span> ・ 演習 ・ 実技 )	
授業担当者 前原 良彦	実務経験		
授業担当者 名地 宙	実務経験	ステップアップ相談員 3年 支援相談員 2年 生活相談員 3年	
授業担当者 川本 公代	実務経験	訪問介護員 4年 ディスクゴルフ指導員 3年 レクリエーション・インストラクター19年	
授業の回数 20回	時間数 (単位数) 20時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期	<span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">必修</span> ・ 選択
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職員初任者が踏まえるべき職務を理解する</li> <li>・ 介護職員初任者が踏まえるべき介護の基本を理解する</li> <li>・ 介護保険による居宅サービス・施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特性を理解する</li> <li>・ 介護保険外のサービスの種類とサービスが提供される意義や目的を理解する</li> <li>・ 介護環境の特徴 (施設と在宅の違い、地域包括ケアの方向性など) について理解する</li> <li>・ 多職種連携の目的を学び、利用者を支援する様々な専門職について理解する</li> <li>・ 介護職自身の健康管理の方法 (病気や障害の予防と対策) について理解する</li> <li>・ 介護保険制度の基本的なしくみを理解する</li> <li>・ リハビリテーションの理念と考え方について理解する</li> <li>・ 障害者支援制度の基本的なしくみについて理解する</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職員の知識について、基本的な理解を深め、業務の基盤をなす知識として定着している</li> <li>・ 介護保険サービスの種類と内容について説明できる</li> <li>・ 介護環境の特徴や違いについて説明できる</li> <li>・ 多職種連携の目的を理解し様々な専門職について説明できる</li> <li>・ 介護保険制度の基本的なしくみについて説明できる</li> <li>・ 様々なリハビリテーションの種類について説明できる</li> <li>・ 障害者支援制度の基本的なしくみについて説明できる</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 上記の知識について、基本的な理解を深め、業務の基盤をなす知識として定着している</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1. 人権と尊厳を支える介護 ①人権と尊厳の保持 2. 人権と尊厳を支える介護 ②人権と尊厳を支える介護 ③ I C F ④ Q O L、⑤ ノーマライゼーション 3. 第1節 人権と尊厳を支える介護 ⑤ 虐待防止・身体拘束禁止		12. 介護の基本 介護職の役割、専門性と多職種との連携② 13. 介護の基本 介護における安全の確保とリスクマネジメント① 14. 介護の基本 介護における安全の確保とリスクマネジメント② 15. 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 介護保険制度①	

<p>4. 自立に向けた介護 1 自立支援  5. 自立に向けた介護 2 介護予防  6. 障害の医学的側面の基礎的知識  7. 職務の理解①多様なサービスの理解  8. 職務の理解②多様なサービスの理解  9. 職務の理解に関するDVD視聴  10. 職務の理解 介護職の仕事内容や働く現場の理解  11. 介護の基本 介護職の役割、専門性と多職種連携①</p>	<p>16. 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 介護保険制度②  17. 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 医療との連携とリハビリテーション  18. 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 障害者自立支援制度及びその他の制度①  19. 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 障害者自立支援制度及びその他の制度②  20. 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 障害者自立支援制度及びその他の制度③  21. 期末考査</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<p>介護職員初任者研修テキスト（中央法規）</p>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 考査点(85%)  到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。</p> <p>2. 平常点(15%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li> <li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li> </ul>

# 授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 初任者研修Ⅱ		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 立花 匡真	実務経験		
授業担当者 大矢アキ子	実務経験		
授業の回数 15回	時間数 (単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年・前期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①介護職員初任者が踏まえるべきコミュニケーション技術を理解する</li> <li>②介護職員初任者が踏まえるべき老化について理解する</li> <li>③介護において認知症を理解することにより、認知症介護の原則を理解する</li> <li>④介護職員初任者が踏まえるべき障害に関する概念・制度・法律を理解する</li> <li>⑤介護職員初任者が踏まえるべき障害の疾患や症状を知り、その介護の基本を理解する</li> </ul> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①介護職員初任者に必要な介護保におけるコミュニケーションとチームワークの在り方、老化に伴う心の変化や高齢者の健康についての知識を学習する</li> <li>②正しく認知症を理解するとともに介護において認知症ケアの理念や視点を理解できる</li> <li>③本人と家族の支援を理解できる</li> <li>④障害の概念とは何かを学ぶ</li> <li>⑤障害者を支える制度や仕組み・法律について理解する</li> <li>⑥障害の疾患や症状、介護における留意点について理解する</li> <li>⑦障害者を正しく理解し介護の基本姿勢を理解する</li> </ul> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p style="padding-left: 20px;">上記の知識について、基本的な理解を深め、業務の基盤をなす知識として定着している</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 第5章 介護におけるコミュニケーション①</li> <li>2. 介護におけるコミュニケーション②</li> <li>3. 介護におけるチームのコミュニケーション①</li> <li>4. 第5章 介護におけるチームのコミュニケーション②</li> <li>5. 第6章 老化に伴うところ①</li> <li>6. 老化に伴うところ②</li> <li>7. 高齢者の健康①</li> <li>8. 高齢者の健康②</li> <li>9. 認知症を取り巻く状況 認知症とは何か 認知症介護の歴史</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10. 医学的側面からみた認知症/認知症の人の行動・心理症状/認知症の原因疾患診断と治療</li> <li>11. 認知症の人に対する介護 認知症の人のところから環境が与える影響/認知症介護・非薬物療法</li> <li>12. 家族支援/認知症の人と家族の現状/認知症の人と家族を支える/行政の取り組み</li> <li>13. 障害の概念、ICF、障害者福祉の基本理念</li> <li>14. 視覚障害、聴覚平衡機能障害、音声・言語・咀嚼機能障害、肢体不自由、内部障害</li> <li>15. 障害の受容、知的障害、精神障害、高次脳機能障害、発達障害</li> <li>16. 期末考査</li> </ul>		

[使用テキスト・参考文献]	<p>介護職員初任者研修テキスト 1 2 中央法規出版</p>
[単位認定の方法及び基準]	<p>・教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 考查点(85%) 到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考查により算出する。</p> <p>2. 平常点(15%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加状況では発言回数が複数回である点を評価する。(5%)</li> <li>・提出課題において、到達目標の6割以上に達している点を評価する(10%)。</li> </ul>

# 授 業 概 要

(社会福祉科)

授業科目名 地域福祉と包括支援体制		授業の種類 ( <input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	
授業担当者 名地 宙	実務経験	・病院・介護老人保健施設・デイサービス等において、ソーシャルワーカーとして勤務。ご利用者・ご家族からの相談、サービス提供、各関係専門機関との連携・調整業務を担当。 ・若者サポート支援センターにて、相談員として勤務。ご利用者からの相談、各専門プログラムの提供、就労定着支援業務を担当。	
授業の回数 15 回	時間数 (単位数) 30 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 年・前期	( <input checked="" type="checkbox"/> 必修 ・ 選択 )
[授業の目的・ねらい] ・地域福祉の基本的な概念や理念について理解する ・外国における地域福祉のあゆみ・日本における地域福祉のあゆみについて理解する (地域福祉の歴史・地域福祉研究者による福祉理論) ・地域福祉の役割と実際、活動について理解する (地域福祉にはどのような専門機関・専門職団体が存在し、どのような活動を行っているか。どのような専門職が存在するか、地域福祉計画についての理解) [授業全体の内容の概要] ・授業は、テキストをメインに教員が作成した資料を補助として使用する ・地域福祉の動向等に関しては必要な情報を検索し把握する。社会福祉関連法制に関しては、福祉六法を使用し、条文の確認を行う ・CSW として活動している豊中市社会福祉協議会・勝部麗子氏の動画を視聴する [授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・地域福祉の基本的な概念や理念について説明することができる。 ・諸外国や日本における地域福祉の歴史や理論について説明することができる。 ・地域福祉に実際に存在する専門機関・専門職団体・専門職について機関等のそれぞれの役割や活動について説明することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 (15 回までの場合はセル結合)			
1. 地域福祉の定義、理念、海外における地域福祉の起源について 2. 海外の地域福祉・イギリスにおける地域福祉の発展について 3. 海外の地域福祉・アメリカにおける地域福祉の発展について 4. イギリスと日本におけるコミュニティケアの発展について 5. イギリスと日本におけるコミュニティケアの発展について		7. 社会福祉協議会の成立・経過～日本の地域福祉諸政策について 8. 地域福祉の主体と対象、活動内容について 9. 地域福祉の推進における法制 (社会福祉法) 10. 地域福祉に係る組織、団体について① 11. 地域福祉に係る組織、団体について② 12. 地域福祉に係る専門職について 13. 地域福祉における社会資源や福祉ニーズの把握方法について 14. 地域福祉における福祉サービスの評価・向	

<p>6. 前半：日本における地域福祉理論について 後半：CSW勝部麗子氏の動画視聴</p>	<p>上の取り組み 15. 福祉のまちづくりと福祉教育について 期末考査</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p>	<p>・山本美香著 『地域福祉の理論と方法』 株式会社弘文堂 2017年2月発行 価格：2,500円＋税 ISBN978-4-335-61177-3</p>
<p>[単位認定の方法及び基準]</p>	<p>・教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。</p> <p>1. 考査点(85%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標の修得状況を測るために、各回で実施した確認テストを編集した期末考査により算出する。</li> </ul> <p>2. 平常点(15%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への参加状況では、居眠りをしているか授業に積極的に参加しているかについて評価する (10%)</li> <li>・提出課題がある場合において、期日までに提出されているかを重点に評価する (5%)</li> </ul>